

〈英米語学科〉

日本語による口頭試問について

神田外語大学の英米語学科では、大学でのアカデミックな学びの土台となる日本語読解力・表現力を以下のように測ります。

形式

明確な主張・主旨がある 800 字から 1,000 字程度の論説文を 3 分間で黙読し、4 つの質問に答えます。

- 質問①「著者の主張」を読み取る問題 質問②「根拠、理由」は何かを答える問題
質問③「内容理解」を問う問題 質問④「表現力」を測る問題

要求される読解力

- ①その記事の中から主旨（著者の主張）と主旨を支持する論拠を読み取ること
- ②記事の中で暗示的な表現が意味していることを正しく読み取り、それを自分のことばで説明すること
- ③記事の内容に関連した質問に対し、自分の考えを論理的に述べること

記事の内容

記事のトピックは、特に専門的知識を要するようなものではありません。社会で身近に起こることや、新聞などでたびたび取り上げられている内容をもとにしたものです。

アドバイス

受験対策としては、まず、日頃から論説文を読む習慣をつけておくことです。800 字から 1,000 字程度の論説文を、3 分くらいの時間で読み、著者が何を言わんとしているか、そしてその主張の裏付けとしてあげている事実や理由や根拠は何かを読み取れるようにすることが重要です。

勉強方法として、日本語による口頭試問対策のためのノートを 1 冊用意し、そこに毎日、読んだ記事を貼り付け、記事の主旨と、それを支持する論拠を書き出す練習をしてください。いくつかの論拠が挙げられているのかということもよく考えます。そうすると、自分が記事を理解できているかどうかわかりますし、だんだんと読みの力がついてきます。ノートが 1 冊終わる頃には、実力だけでなく、自信もついてきます。

日頃から世の中で起きている出来事や議論となっている問題などに注意を向けて、読む習慣をつけることが入試で高得点を取ることに繋がります。このような読みの力は、大学教育全般で求められる能力であり、学問を身につけるための基礎です。

大学では、自分が知識を持っていない事柄についても多く学んでいきます。自分にとって未知なことも、本や資料を読んで「正確に理解する力」が不可欠です。なんとなく「こんなことについて書いてあるのではないか」という程度では、大学で学ぶための読解力が不十分です。まずは、上に述べたような「論説文を読んで、主張やその論拠を理解し、ノートに書く」という勉強を重ねて、推薦・特別選抜入試に臨んでください。このような努力で培った読解力は、みなさんの大学での学びを有意義なものにする基礎力となります。



言葉は世界をつなぐ平和の礎

神田外語大学